

2007年8月 日本最高峰のエクセレントジュエリー図鑑に  
にKIKUI KAZUOが10ページにわたって掲載



柏書店松原(株)より2007年8月に刊行された「日本のエクセレントジュエラーズ」にKIKUI KAZUOの作品が16点10ページにわたって掲載されました。名実ともに「日本の最高峰たちの宝飾品図鑑」と銘打ち、1年がかりで完成された豪華図鑑には、厳選されたクリエイター18名(社)のみの作品が掲載されています。

「ジュエリーは、着ける人に持つ喜び、使う楽しさ、そして最高の感動をもたらす”身に着ける美術品”でなければならない」 職人にしてデザイナー菊井一夫30年の一貫した信条です。アール・ヌーヴォーやエドワードィアン・スタイルの造形美に強くインスパイアされて、菊井一夫のジュエリーの創作は始まりました。以来、古典的な優雅さを基調としながらも、現代を強く、しなやかに生きる彼のジュエリーは、現代の女性たちからも多くの支持を得てきました。それは時を超えたヨーロッパの様式美が、菊井一夫という名の卓越した「技」と「感性」によって、見事に現代に蘇っているからに他なりません。侵し難い古典美の、数少ない伝承者の一人でありながら、菊井はそこに現代の風を通す離れ技をやっている、稀有の革新者でもあるのです。 ※「日本のエクセレントジュエラーズ」より一部抜粋



エドワードィアンスタイル・ダイヤモンド・ペンダント  
Edwardian Style Diamond Pendant  
Pt900, Diamond  
Created by Kazuo Kikui

ジュエリーに最初にプラチナを本格使用し、植物モチーフのデザインで一時代を築いたのはカルティエだが、ガーランド様式或はエドワードィアン・スタイルと呼ばれる、当時のカルティエのソトワール(大振りの首飾り)を、限りなく忠実に再現したのが本作品である。ダイヤモンドを多用したのは菊井のオリジナルだが、レプリカもこの域まで来れば最早レプリカを越えたと云えるかも知れない。地金量は最小限に押さえて見た目より軽いのに、強度は万全。すかし技法の出来栄も細部まで丁寧仕上がって、それは見事である。

※「日本のエクセレントジュエラーズ」より一部抜粋